

2018年度 かもめ保育園事業報告

かもめ保育園は、1964年共同保育所として一宮で初めての産休明け保育を実施。多くの方々の協力を得て、1975年に認可園になった。園舎の改築や増築を経て、就学前までの一貫保育を実施する園に発展してきた。

今年度、子どもの受け入れを積極的に行ったものの厳しい経営となった。2017年度からの80名への定員増による保育単価の変更が大きく影響している。人件費にかかる割合が大きいが、保育の質を保つために配置した。

1、保育園運営

(1) 園児入所状況 (定員 80名 : 0歳児 13名、1・2歳児 26名、3歳児以上 41名) 【単位 : 名】

月 年齢	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	月 平均
0歳児	10	11	12	16	16	16	16	19	18	19	19	18	190	15.8
1,2歳児	33	33	34	35	35	33	33	33	33	33	32	32	399	33.3
3歳児	13	13	13	15	15	15	15	15	14	14	14	14	170	14.2
4歳児以上	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	336	28
合計	84	85	87	94	94	92	92	95	93	94	93	92	1095	91.25

・今年度の月平均入所数は、前年度の86.3名より4.95名多かった。

(2) 健康管理

- ・内科健診は、乳児クラスで月1回、幼児クラスで年2回実施した。
- ・歯科検診年2回、フッ素指導年1回、歯磨き指導年1回実施した。

(3) 安全対策

①防犯・防災・避難訓練

- ・防犯・防災・避難訓練は、年間計画に基づき毎月訓練を実施した。
- ・消防署職員の指導により、心肺蘇生訓練を実施した。
- ・不審者訓練は、7月、11月、3月の3回実施した。
- ・10月に末広小学校での広域避難訓練に参加した。
- ・災害時に使用する避難用バレーシューズを購入した。

②安全管理

- ・業者による遊具点検(年3回)の結果は、いずれも問題がなかった。
- ・業者による砂場殺菌は、年3回実施した。

③衛生管理

- ・消毒用アルコールを各クラスに用意して、食事前に使用した。
- ・夏の水遊びの水質管理については、水質状況を記録するなど衛生管理に努めた。

2、保育目標

(1) 今年度の方針に対する取り組み

①家庭的雰囲気の中で、子どもの心も体も健やかに育てる。

- ・乳児クラスで子どもが意欲的に遊びに向くことができるように、環境の設定の改善に取り組んだ。また、一人ひとりの生活リズムを考慮し、食事・睡眠など時差をつけて保育を行った。

②給食は、保育の一環としてとらえて取り組む。

- ・喉に詰まりやすい食材をどう調理するのか検討した。

③保育所保育指針の改正に伴い、当法人がめざす保育を職員会で話し合う。

- ・子どもたちの生きていく力の基礎を築くように、また保育の養育面と教育面でのさらなる充実を図るよう保育を進めてきた。日常の姿から見えてくる、子どもの思いを探り、寄り添う事を大切に話し合いを進めた。

④職員が一つの集団として、園児の育ちや保育を把握して話し合いを深める。

- ・異年齢保育（4・5歳児）の取り組みについては、今までの積み上げをもとに新たな視点でねらいを確認しながら取り組み、異年齢の良さを職員間で議論し共有した。全国保育団体合同研究集会上に実践提案して、学んできたことを職員の中で確認した。また、年度末の保育のまとめでは、講師を招いて異年齢保育の行事に取り組むうえでのねらいなど議論し確認した。

⑤支援の必要な家庭には、専門機関等と連携を取りながら保育を行う。

- ・児童相談所、市役所等専門機関と連携して家庭支援に取り組んだ。しかし、家庭訪問を行った際に保育園で行える支援の限界があり、自治体への支援を求めた。
- ・配慮の必要な子どもの家庭とは定期的に面談を行い、園と家庭の様子を伝え合い育ちや悩みを父母と共に共有した。また、定期的に園を訪問している他機関の専門職員との連携も保育に組み込んだ。

(2) 保育内容

	目 標	子どもの姿・クラスの様子
0 歳 児 (ひよこ組)	・個人差をふまえ一人ひとりの発達を保障し、生活リズムを確立していく。	・年間を通じて、途中入所が多い1年となった。その中で、子どもの一人ひとりの要求をくみ取り保育を行った。月齢の違いから遊びの要求が違う時は、グループ分けをして子どもが意欲的に向かえる環境設定をした。また、見守り支援家庭に対して、保育内容の伝えや保護者の気持ちの受け止めなどを丁寧に行った。
1 歳 児 (こぶた組)	・遊びの中で共感することを沢山体験していく。 ・「自分で」の気持ちを出せるようにしていく。	・食事などの行動への切り替えが苦手な子どもへの対応として、担当を固定にしたり、時差をつけたりと対応した。 ・目の前の子どもの姿から「自分で」や「だだこね」に丁寧に向き合い、気持ちを引き出して受け止めた。
2 歳 児 (きりん組)	・友だちとの共通体験を通して、共感する楽しさを遊びや生活の中で味わう。	・行動のコントロールが苦手な子どもに対し、父母の働く現状をつかみながら、心地よく過ごせる環境を探った。 ・子どもが意欲的に遊びを見つけられるよう、おもちゃの棚の位置など環境設置を工夫した。
3 歳 児 (ぞう組)	・友だちと一緒に「いっちょまえ」の自分に自信を持って楽しんで取り組む。	・友だちと遊ぶ中で、つながりがひろがり後半は集団として意欲的に取り組むことができた。その中で、友だちの気持ちにも気づいていけるようになり、自分と重ねる姿もみられるようになった。

4・5歳児 (くじら組)	・友だちの中で認められることで自信を持ち取り組みを楽しむ。 ・仲間と一緒に一つの目標に向かって取り組む。	・28名の集団を2グループに分け、小さな異年齢の集団にした。その中で、友だちや保育士とより近い関係の中で、自分はあるのままでいい。安心して自分を出し認めあえるという異年齢ならではの姿があった。年齢の幅がある中で、進んだり・止まったり・戻ったりをしながらありのままの姿を仲間を受けてもらいながら気持ちを伝えあった。
給食室	・取り組みを通して、食に興味をもつ。	・給食では食をいただくという事の大切さを、絵本や食材を通して伝える取り組みを行った。

(3) 年間行事 以下の行事について、年度当初の計画どおり実施できた。

開催月	園 行 事
4月	春のつどい(幼児クラス)
5月	交通安全教室、遠足
6月	人形劇、プール開き(乳児クラス)
7月	プール開き(幼児クラス)、七夕まつり、お泊り保育(5歳児)
8月	夜まで保育(4歳児)
9月	プール大会、移動動物園
10月	運動会、遠足、いもほり
11月	やきいも大会
12月	クリスマス会
1月	おたのしみ会(幼児クラス)
2月	豆まき
3月	ひな祭り会、お別れ遠足(5歳児)、卒園式、入園式(入園説明会)

☆誕生会(月1回)、避難訓練(月1回)、クラス懇談会(年4回)、保育参加(幼児クラス年1回)、1日保育参加(乳児クラス年1回)

☆父母の会との連携行事(かもめ保育園運営総会、保育祭、大掃除、もちつき大会、交流会、夕涼み会等)

(4) 施設・設備・備品について

- ・給食室給湯器更新(1台)
- ・給食室冷暖房設備増設(1基)
- ・和太鼓購入(1個)

3、保育事業

(1) 延長保育事業

- ・保育標準時間認定利用者の月別利用数(延長保育時間18:15から19:15まで)

【単位:名】

月 別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1日の平均利用者数	11	12	13	15	11	13	13	15	14	14	15	16

- ・保育短時間認定利用者の月別利用数(延長時間7:15から8:30まで、16:30から19:15まで)

【単位：名】

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
実利用者数	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	2	2

・年間利用状況

【単位：名】

短時間認定利用者	実利用数	延べ利用数 (7:15~8:30)	延べ利用数 (16:30~18:15)	標準認定利用者	実利用数	延べ利用数 (18:15~19:15)
	7	7	9		68	4,020

・職員配置—正規・常勤職員以外に短時間職員5名を配置した。

☆18:30 から職員が3名になるが、子ども的人数が多く予定の体制で保育できない時もあり、職員が超勤することも多々あった。人員配置を増やそうと検討したものの、夕方の配置を多くすれば午前中の人員が足りなくなるという事も予想され実現が難しかった。

(2) 土曜特別保育

【単位：名】

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
1日の平均利用者数	8	12	15	15	15	17	18	18	18	17	14	12

☆保育の当日キャンセルがあった日は、短時間常勤職員の方の勤務時間を短くして人件費削減の協力をしてもらったり、乳児の利用が多く職員配置が難しい時もあり、日によるバラツキがあり体制を組む難しさがあった。

(3) 子育てひろば（一宮市委託事業）

- ・来所者数は延べ1,300人、年間12回開催した。
- ・公園遊び、水遊び、手作りおもちゃなど四季に応じた遊びや育児教室を通して親子間の交流を図った。

(4) 一時預かり事業

- ・年度の後半になると、予約数が増え私的理由で入れない方が多くなってしまった。
- ・利用調整をするための事務時間の確保が難しかった。
- ・アレルギー児への受け入れを行い、保護者支援の枠を広げた。

4、地域との関わり

- ・地域子育て支援ホールを毎月1回（土曜日）の地域サロンに開放した。
- ・かもめサークルに施設の貸出しを行った。
- ・保育祭、卒園式などにも地域の方の参加があり、保育園の様子を伝えることができた。

5、職員

(1) 職員配置

担当	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4・5歳児	給食
配置人員	6名(年度途中で2名増員)	4名	3名	1名	2名	3名

- ・8月から栄養士1名が、かもめ三ツ井保育園へ産休代替として異動。
- ・2月末からの産休代替保育士が見つからず、一時預かりの常勤職員を0歳児クラスへ移動させなくてはならなかった。
- ・正規保育士1名及び短時間臨時職員2名が年度末で退職した。

(2) 健康管理

- ・11月と12月にかけて職員の健康診断を行った。再検査を必要とする職員が数名いた。また、インフルエンザ予防接種を積極的に取り組むように呼びかけ、9割ほどの職員が受けた。
- ・給食室の環境改善のため、エアコンを1台増設した。
- ・特殊検診(ストレスチェック及び職業病早期発見)は、14名が受けた。

(3) 会議

月案検討会議は乳児クラスと幼児クラスを別日に設け、各クラスの保育についての話し合い時間の確保をした。合同で行っていた時よりも、保育について深めた話し合いが持てる時間が確保できた。職員全体にクラスの状況が伝わりやすいように状況記録を作成してきたが、会議に参加してなかったりすると、クラスの状況が伝わりにくいこともあった。また、職員会では報告、討論事項も多く保育の全体討論に時間がつukれないこともあった。

(4) 研修

保育の力量をさらに高めるため、積極的に研修に参加した。子育て世代の職員は夜、土日の研修には出席が難しいこともあり、文献などでの研修に取り組んだ。学んだことは職員会で報告してみんなが保育に生せるよう取り組んだが、限られた時間内での報告は難しかった。今年度、自ら研修テーマを決め、研修・文献等主体的に取り組むことができる方法で行った。年度の終わりの面談で、今年度を振り返り来年度の課題も自ら提案してもらった。また、年2回の保育実践の検討会では、異年齢の行事について検討を深めたり、障がい児保育の検討会では、専門機関の指導をもとに職員会で対応を話し合った。

①外部研修

保育実践講座—2名 春の年齢別連続講座—3名 全国保育問題研究集会—6名

衛生推進者講習—1名 プレ合研—19名

他多数

②合同研修(かもめ保育園、かもめ三ツ井保育園)

研修名	実施日・場所	参加人数	内容
保育園の歴史研修	4月11日(水) 18:30~20:00	かもめ保育園 23名	・全国保育団体合同研究の成り立ちのDVDをみながら保育の歴史を学び、合わせてかもめの歴史、保育の歴史、父母との保育の共同の歴史について学んだ。
保育指針が新しくなって何が変わったか?	5月8日(水) 19:00~20:30 一宮市民会館	かもめ保育園 20名	・年齢別の発達についての部分が曖昧になってきている。しかし、道徳を教科に加えて評価がつくようになってきている。小学校に入るまでにやれるようにと10の項目があるが、子どもの実状にあった保育を検討していくことを考えていきたい。

③園内研修

- ・5月9日（水）障がい児保育についての学習
- ・7月4日（水）「生き物とどうつき合うか？」状況記録をもとにグループ討議
- ・9月5日（水）全国保育団体合同研究報告会
- ・10月3日（水）異年齢保育について
- ・11月7日（水）食事時の姿勢について
- ・12月5日（水）異年齢保育について
- ・3月6日（水）異年齢保育について

④園外研修の参加状況

- ・正規職員の研修出席平均件数は、12件。参加平均研修時間は、26時間。
- ・常勤臨時職員の研修出席件数は4件。参加平均研修時間は、14時間。
- ・非常勤（短時間）職員の研修出席件数は1件。参加平均研修時間は、2時間。

☆年度の研修テーマを各個人で定め、研修計画を立て自主的な学びを目的とした。また、外部研修で学んだ事を職員会で報告してもらい、他の職員と共有した。子育て世代の学びの保障が今後の課題となっている。

6、苦情対応

- ・特になし